



2025.2.21

# 郡山市立 日和田小学校 NEWS LETTER

文責 関 忠昭

Vol.10

**\* 2月 \* (如月:寒さ厳しく重ね着「衣更着」)**  
立春の前日「節分」。今年は2月2日でした。すっかり定着した新風習「恵方巻」を頬張りながら、春の足音(年度末・卒業式)が近づいていることを感じました。

## 縄跳

## 目指せ！ 1級！ チャレンジウィーク

2月3日(月)～7日(金)の期間を「なわとびチャレンジウィーク」と題して、自己記録の更新に挑戦する記録会ウィークに設定しました。

この季節は、感染症が流行する時期でもあり、これまでの一発勝負の記録会だと、体調が万全でない子や、ワンチャンスに緊張して跳べない子なども多く見られたため、1週間のチャレンジウィークを設けることで、記録更新への意欲を持続させ、**体力向上と、何度でもあきらめずに頑張る気持ち**を育もうとした新たな取組です。

学年に応じて多種目にチャレンジする「**級**」を設定したり、終了後には、「**なわとび記録証**」を交付したりするなど、目標を持って取り組めるよう励ましてきました。体育の授業だけでなく、休み時間にも寒さに負けず友達と一緒に元気になわとびを頑張る子どもたちの姿が印象的でした。



## Pick Up なわとびチャレンジウィーク



(縄跳びのいろいろな技にチャレンジしました)

## 朝の読み聞かせ (今年度最終回)

## 読書

読み聞かせボランティアの皆様による「朝の読み聞かせ」活動。2月19日(水)が、今年度の最終回となりました。ポランティアの皆様、学年に応じた様々なジャンルの楽しい読み聞かせ、ありがとうございました。  
幼少期～小学校低・中学年期における「読み聞かせ」は、子どもを本(活字)の世界へと誘う大切な活動です。たくさんの方のクラスで読み聞かせ活動を行うためには、ポランティアの方がまだまだ足りない状況です。本が好きな方、子どもが好きな方など、ご興味のある方は、学校までお問い合わせください。※見学だけでもぜひ！

## 6年

## 村田製作所 特別授業

2月14日(金)に、東北村田製作所の皆様にお越しいただき、特別授業を行いました。電子回路を使い、手回し発電機や光電池で電気を生み出す実験をしたり、細かい部品を組み立てたり、電子オルゴールを作ったりと、中身がぎっしり詰まったり、2時間でした。今回も授業を通して、身の回りにある電気を活かした製品がたくさんあることを学びました。学ばせていただき、ありがとうございました。



## 全国学校給食週間

## 給食

1月24日～30日までの全国学校給食週間。今年度は、1月24日(木)から2月1日(水)まで、7日間の給食週間です。この期間中は、給食の役割を正しく知ってもらい、食生活の改善を図ります。また、食文化の大切さや、食料の大切さについても学びます。この機会に、食生活の改善を図り、健康な生活を送りたいですね。



教育関連 Topics

名言

偉人に学ぶ

#Connecting the dots.

2月24日、iPhone等の革新的技術で世界を変えたスティーブ・ジョブズの誕生日70年を迎えます。2005年、スタンフォード大学での伝説のスピーチ「Connecting the dots.」(点と点をつなぐ)の一節です。

「将来を見据えて、点(行動や経験、知識)と点をつなぐことはできない。できるのは、後で振り返ったとき一つながっていたんだ!」と知っている。だから、信じるしかない。今やっていることが、いつか自分の役に立つ。私はこのやり方で後悔したことはない。むしろ、大きなものをもたらしてくれた。」

「仲間とAppleを創業し、最良の商品Macを発売した1年後、自分が作った会社から解雇された。絶望の淵から立ち上がり、ピクサーを設立。世界初のCGアニメ「トイストーリー」を製作した。この技術が、再び呼び戻された。Appleの中核を支える技術となった。Appleを追い越さなければ、今の自分はなかった。非常に苦い薬ではあつたけれど、私には、そういう辛い経験が必要だった。最悪の出来事に見舞われても、立ち止まるな。信念を失うな。」

「人生に、無駄な経験などない。たくさん挫折や失敗が糧となつて、いつか必ず自分の助けにできる。大切なのは、その時できる精一杯で「今を生きる」こと、そう教えています。」

経験と同様に、人との出会いも、大切な「点」です。いろいろな人との関係作りが、後で思わぬ課題に役に立ちます。一人の力は小さい。困難な人間関係を広げておくことは、先々に自分を助けてくれる大切な布石なのだと思います。

過去の経験(点)と今の課題(点)をつなぐ方法を「考えること」です。その両方が「点と点をつなぐ方法」という点が増えるほど、点と点をつなぐことが多様になる。前向きな気持ちと立ち上がり方をやめない限り、自分救いは「経験」という大きな糧となり、自分を救うことができるのだと思います。「乗り越えた壁は、困難に立ち向かう勇氣と、自分を信じる力」を育んでいきたいと思えます。



冬の遊びに大喜び!



1年生が、生活科の学習で「凧あげ」を楽しみました。2月初旬の最強寒波の際には、「雪だるま」を作ったり「雪合戦」をしたりと、一面の雪景色の中、雪まみれになってはしゃぐ子どもたちの声が響いていました。冬定番の遊びで汗だくになって走り回る子どもたちを眺めていると、子どもの本質は昔から変わっていないのだと改めて感じました。



1年生：凧あげ

3

3月の行事予定

- 3日(月)~6日(木) 学期末短縮 (B案)
- 7日(金) 卒業式会場作成① (5年)
- 11日(火) いのちを考える日 同窓会入会式 (6年)
- 12日(水)・13日(木) 特別清掃(ワックスがけ)
- 13日(木) 卒業式予行(5・6年)
- 19日(水) 修了式 (1~5年) 卒業式会場作成② (5年)
- 20日(木) 祝春分の日
- 21日(金) 卒業証書授与式(5・6年)
- 26日(水) 教室移動
- 27日(木) 離任式 (自由登校)

\*\*\* お弁当の日 \*\*\*  
19日(水)



コラム Column



右の写真、何をしている写真だと思いませんか? 赤子をおんぶして何かを見つめる少年…これは1945年にアメリカ従軍写真家オダネル氏が撮影したものです。タイトルは『焼き場に立つ少年』。戦争と核兵器の愚かさを伝えるため、オダネル氏が43年の時を経て公開しました。原爆正当化論が根強い米国で強烈な批判に耐えながら…。戦後80年を迎える今年、過ちを繰り返さないために、伝えていかななくてはならない大切なメッセージが、この写真には込められています。 ~以下 オダネル氏の手記より

佐世保から長崎に入った私は、小高い丘の上から下を眺めていました。すると、白いマスクをかけた男達が目に入りました。男達は、60センチ程の深さにえぐった穴のそばで、作業をしていました。荷車に山積みにした死体を、石灰の燃える穴の中に、次々と入れていたのです。

10歳ぐらいの少年が、歩いてくるのが目に留まりました。おんぶひもをたすきにかけて、幼子を背中に背負っています。弟や妹をおんぶしたまま、広っぱで遊んでいる子供の姿は、当時の日本でよく目にする光景でした。

しかし、この少年の様子は、はっきりと違っています。重大な目的を持ってこの焼き場にやってきたという、強い意志が感じられました。しかも裸足です。少年は、焼き場のふちまで来ると、硬い表情で、目を凝らして立ち尽くしています。背中の赤ん坊は、ぐっすり眠っているのか、首を後ろにのけぞらせたままです。

少年は焼き場のふちに、5分か10分、立っていたでしょうか。白いマスクの男達がおもむろに近づき、ゆっくりとおんぶひもを解き始めました。この時私は、背中の幼子が既に死んでいる事に、初めて気付いたのです。男達は、幼子の手と足を持つと、ゆっくりと弾るように、焼き場の熱い灰の上に横たえました。まず幼い肉体が火に溶ける、ジュウという音がしました。それから、まばゆい程の炎が、さっと舞い立ちました。真っ赤な夕日のような炎は、直立不動の少年のまだあどけない頬を、赤く照らしました。その時です。炎を食い入るように見つめる少年の唇に、血がにじんでいるのに気が付いたのは、少年が、あまりきつく噛み締めている為、唇の血は流れる事もなく、ただ少年の下唇に、赤くにじんでいました。夕日のような炎が静まると、少年はくりときびすを返し、沈黙のまま、焼き場を去っていきました。

【朝日新聞創刊120周年記念写真展より抜粋】